

地域と大学・附属が連携した算数・数学科における取り組み

3.浜松市教育研究会中学校数学科研究部と附属浜松中学校が連携した取り組み(「西部数学サークル」の活動)

(1) 研究会の概要

西部数学サークルは、静岡大学の教員が助言者となる以前から活動を行っていた。しばらくの間中断されていた時期もあったが、静岡大学・國宗進教授(現名誉教授)が発起人となり、平成4年度から西部数学サークルは再開された。

平成4年度は、平成5年度より施行される改訂学習指導要領に合わせ、評価規準を作成し、冊子としてまとめるための研究会として活動を行った。助言者として國宗進教授が参加し、浜松市教育研究会中学校数学科研究部顧問校長、浜松市教育研究会中学校数学科研究部部長、浜松市教育研究会中学校数学科研究部から推薦された教諭合わせて15人程度が附属浜松中学校に集まり、年間12回実施した。

平成5年度は、実施回数を年間5回とし、数学教育に関するテーマを設定して参加者による協議を行っていた。平成6年度からは、参加者を固定せず、西部地区管内の教員による自由参加とし、興味のある教員ならだれでも参加できるようにし、協議内容も日頃の指導における疑問点や悩み等について意見を交換し合ったり、選択教科の学習材について情報を交換し合ったり、学習指導要領についての勉強会であったりと、多岐にわたるようになった。さらに、平成14年度施行の改訂学習指導要領における移行措置について國宗進教授より御指導をいただいたり、評価や教材、総合的な学習の時間と数学科とのかかわり、定期テストのあり方やその評価方法、国際数学・理科教育動向調査等、現場の教員ならだれもが興味をもてるものを協議内容としたりする勉強会形式で行われていた。

平成21年度からは、実施回数を年間6回とし、上記以外にも、研究授業の指導案の検討であったり、浜松市教育研究会中学校数学科研究部の研究推進委員による教育研究論文の検討であったり、浜松市内の公立中学校を会場として研究授業を年度末に行い、事前協議会・事後協議会を開催するなど、数学科教員にとって身近な研究会としての意味合いが強くなってきている。また、以前より数学の授業力向上を目的として、浜松市の公立中学校数学科教員が附属浜松中学校の生徒に年1回研究授業を行ってきたが、平成24年度より、西部数学サークルにおいてその指導案の事前研究会を行うようになった。さらに、研究授業後の教科協議会では、大学教員が助言者となっている。

現在の西部数学サークルは、平成21年度からの内容を継続し、助言者として静岡大学・裕元新一郎教授が参加し、年間6回程度実施している。各回とも、浜松市教育研究会中学校数学科研究部顧問校長、浜松市教育研究会中学校数学科研究部部長をはじめ、浜松市教育委員会指導課指導主事を含めた15～20人程度の参加者により熱心な協議が行われている。



グループ討議



公立中学校教諭による附属浜松中学校生徒への授業

また、西部数学サークルは、附属浜松中学校が事務局となり、浜松市教育研究会中学校数学科研究部とタイアップして行われている。本校は、浜松市教育研究会数学科研究部部長と大学教員の間に入って、日程や協議内容等の連絡調整を行っている。附属浜松中学校の役割としては、事務局はもとより、県西部地区の公立中学校と静岡大学を円滑に結ぶパイプ役であると考えている。

(3) 地域と大学・附属が連携した成果

静岡大学・附属浜松中学校と地域の公立中学校が連携することにより、日頃の指導における疑問点や教材研究のあり方、研究授業、教育研究論文等、様々なことについて、大学教授から専門的な立場からの助言を得ることができ、数学科教員としての資質の向上に役立てることができた。普段、大学教授から直接御指導いただける機会はそれほど多くはなく、西部数学サークルを実施することにより、気軽に自身の思うところ伺い、大学教授もそれに対して真摯に受け止め、丁寧な御助言、御指導をいただけける機会は大変貴重であり、有意義な時間とすることができた。

また、大学教授・附属浜松中学校教諭が地域の公立中学校教員とテーブルを一つに話し合うことで、公立中学校からは少し離れた存在であると思われがちな附属浜松中学校を、より身近な存在に感じていただくことができた。

さらに、西部数学サークルは、附属浜松中学校の教育研究を地域の公立中学校教員に直接宣伝できる貴重な場でもある。私たちの教育研究は、附属浜松中学校の生徒に対してのみ実践する研究ではなく、公立中学校でも参考にしたり実践したりしていただくことで、より意味のあるものになると考えている。西部数学サークルという場で、数学教育に関心の高い有志が一堂に会し、附属浜松中学校の教育研究についての理解を深めていただく一助となっていると考える。